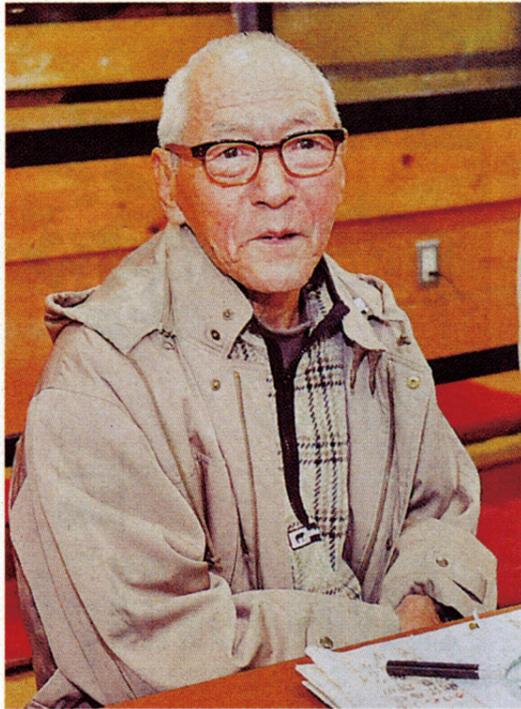


旧三条工業山岳部生みの親

高橋小一郎さん 県内有数の山岳リーダーで活躍



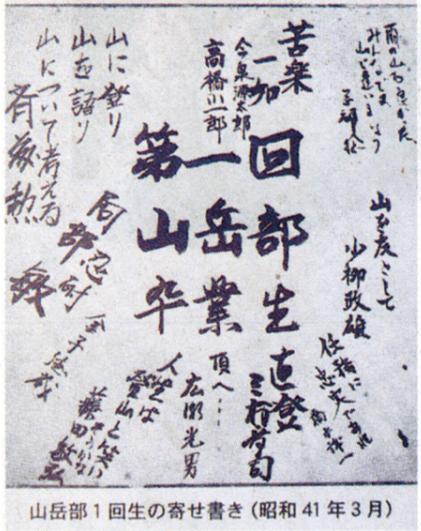
県立工業高校の山岳部生みの親、高橋小一郎さん

ヒマラヤトレッキング隊員に 谷川遭難では現地で救助活動

インターハイ部員を県選抜チームに いや国体

県立三条工業高校(現・県立工業高校)の教諭を務め、昭和四十年に同校山岳部を立ち上げ、同部顧問として全国大会に選手を送り出し、県高校体育連盟登山部の委員長も務めるなどした三条市篠岡、高橋小一郎さんが二十一日午後、肺炎のため、入院先の新潟市、県立がんセンター新潟病院で死去した。八十七歳だった。戦後まもなく、三条実業高校定時制の教諭として着任、高校生登山の指導に力を注いだほか、日本山岳会越後支部主催のヒマラヤトレッキングにも隊員として参加したり、谷川岳の遭難事故の救助隊として現地に出入るなど県内でも有数の山のリーダーとして知られ、慕われた人だった。

高橋さんは平成十八年努めたものの、高齢もあり、三月に肺がんを発症して、日々、体力が低下し、放射線治療を、さらに同二十一日午後二時七分、年十一月には右下肢急性息を引き取った。高橋さんは昭和二十二年十月に山岳部を創設、同注ぎ、その年の大分イン



山岳部1期生の寄せ書き(昭和41年3月)

三条工業高校では着任部顧問として指導に力を注ぎ、その年の大分イン

秀峰・望月さんとともに 教え子たちは秀峰の現役

その素地は昭和二十九を舞台に、関東方面の山岳会との交流等で技術的に入会した三条を代表する山岳会・秀峰山岳会にも格段の進歩をとげる。当時、昭など、秀峰山岳会が最も輝いていた時期とされ、



山岳部の日総会で創部五十周年記念の感謝状を受け取る高橋さん



二〇一三年十月、山岳部創部五十周年記念事業で現役部員らと谷川岳登山に参加した高橋さん(黒い雨傘の人) 当日は雨で登山中止

今日の特集
新潟県倫理法人会長岡地区、NPO法人住民安全ネットワークジャパン
第二回実践/未来創造セミナー「日本創生」シヤナリスト櫻井よし子さん(午後六時から長岡市立劇場)
移動採血車ゆづあい号による採血△午前9時〜10時半 浦新田所役所豊浦庁舎△午後0時半〜1時45分 浦新田所、白玉の湯泉慶△午後3時〜4時 同、豊浦病院
県夜間小児救急医療棟
▲なでしこ 青空保育園
話相談(午後七時〜十一時、☎〇二五二二八八二五二五)
▲県立医師会応急診療所 夜間診療△内科・小児科・外科・整形外科(午後七時〜十時受け付け、興野一△三三〇九〇九)
▲若葉幼稚園お泊まり会(二十四日まで)
▲中学校一学期終業式
▲三条市百合幼稚園年少児身体測定
▲特別養護老人ホーム長和園(大野畑) △喫茶C棟
▲なでしこ 青空保育園
▲本成寺公民館△孫育て

講座(午前九時半から) 三条市シルバー人材センター入会説明会(午前九時半から)市役所第二庁舎一階・同センター事務所
▲三条市立図書館△さん 実践(午後五時から)
▲三条市社会福祉協議会 救急法講習会(午後五時から)総合福祉センター
▲三條信用組合信栄会夏 季特別講演会△「どうなる日本経済」アベノミクスで景気は回復するのか?」経済ジャーナリスト 須田慎一郎さん(午後六時から)三条市横町二、銭



剣岳が大好きだったという高橋さん(向かって左端の当時ではハイカラなベレー帽の人が高橋さん) 昭和三十三年八月の夏季合宿



五十二年十二月に脳こうそくを発症したがリハビリに努め、腕に若干のマヒが残ってはいったものの、翌年の二学期から職場に復帰。その後、約七年勤めたあと、五十六歳で勤奨退職の道を選択。岩室温泉病院(当時)のデイケアに通いながらリハビリと療養に努めていた。
山では「いやあ、タンペ、タンペしたいや」と、ごなごなした様子で山頂にたどり着くのが定番。

くるま探し専門店
MOBILE SERVICE
モービルサービス
三条市猪子場新田270-6
TEL(0256)46-0029

夏SALE開催
婦人服
ミノワ
三条市神明町三三四四〇五二